

第16回

三重県文化賞受賞者名簿

平成29年5月21日

三 重 県

## 第 16 回三重県文化賞 総評

三重県文化賞は、三重県の文化振興に貢献し、その活動や功績が優れた個人・団体（以下「個人等」という。）を讃えることにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標になるようにという趣旨で設けられた顕彰制度である。

表彰の体系は、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動と功績が優れ、本県の文化向上に貢献した個人等を対象にしている文化大賞、文化功労賞及び文化奨励賞と、芸術、伝統芸能、生活文化等における活動で将来一層の向上が期待される個人等（県内在住又は三重県出身者に限る。）を対象にしている文化新人賞からなる。

平成 13 年度の第 1 回表彰から平成 27 年度の第 15 回表彰までの受賞者数は 213 名・団体（以下「名」という。）である。

受賞候補者の推薦は、公募により、自薦、他薦を問わない。

第 16 回目になる今回は、平成 28 年 7 月 22 日から 9 月 21 日まで募集を行ったところ、44 名の方からの推薦があり、受賞候補者は 40 名となった。

### 【募集結果】

受賞区分	推 薦 数	受賞候補者数
文化大賞	11	7
文化功労賞	9	9
文化奨励賞	16	16
文化新人賞	8	8
計	44	40

※上記のうち、「推薦数」と「受賞候補者数」の件数の相違については、受賞候補者に対し複数名の推薦があったことによるもの。

各賞の受賞者については、三重県文化賞表彰要綱及び三重県文化賞実施要領の規定に基づき、学識経験者、芸術文化関係者等 10 名で構成する第 16 回三重県文化賞選考委員会（以下「選考委員会」という。）の選考を経て、知事が決定する。

選考委員会では、推薦書、履歴・業績調書、履歴・業績を示す資料を基に、また、必要に応じて内容の確認や追加資料の提出を求め、厳正かつ公正に行った。

選考委員会における各賞の選考過程は次のとおりである。

文化大賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が極めて優れ、三重県の文化の向上に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点から第一次選考を行って2名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った2名は、いずれも活動、功績とも素晴らしく優劣をつけがたいもので、様々な観点から議論を行ったうえで、選考を行い、音楽分野（作曲）の錦かよ子さんを選出した。

文化功労賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動と功績が優れ、三重県の文化の活性化に貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って5名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った5名の活動と功績は優れた水準を維持しており、決選投票を行うほどの接戦となり、最終的に文学分野（俳句）の石井いさおさん（本名：石井烈）、写真分野（写真）の矢田新男さんの2名の選出となった。

文化奨励賞は「芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動により功績を収め、三重県の文化興しに貢献した個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って10名に絞り込み、第二次選考を行った。第二次選考に残った10名の活動水準は高く、評価が伯仲する状況であったが、三度の決選投票を経て、最終的に文学分野（現代詩）の梅山憲三さん、文学分野（俳句）の岡本千尋さん、美術分野（陶芸）の加藤秀樹さん、伝統芸能分野（尺八）の憲旺会、音楽分野（作曲）の伴剛一さんの5名を選出した。

文化新人賞は「県内在住者又は三重県出身者で、芸術、伝統芸能、生活文化等にかかる活動で、将来一層の向上が期待される個人等」に授与するものである。

この視点で、第一次選考を行って5名に絞り込み、第二次選考を行った。活動は短期間だが業績はめざましく、それぞれの分野において優れた活動実績が認められたため、生活文化分野（書）の伊藤潤一さん、美術分野（木工）の前田祐英さん、美術分野（パステル画）の森川真理子さん、文学分野（俳句）の森下充子さん、美術分野（彫刻）の横田千明さんの5名を選出した。

選考結果をみると、選考委員会での真摯な議論により、各賞とも素晴らしい方々を選出することができた。受賞された皆様におかれては、今後ますますのご活躍と、三重県の文化レベルの一層の向上に寄与していただくことを期待したい。

今回の受賞候補者を分野別で見ると文学分野 8 名、美術分野 10 名、音楽分野 7 名、演劇・舞踊分野 5 名、写真分野 1 名、メディア芸術分野 1 名、伝統芸能分野 4 名、生活文化分野 1 名、学術分野 1 名、その他の分野 2 名であった。

文学分野、美術分野、音楽分野での推薦が多く、これらの分野で活躍される方々の層の厚さが窺われる一方、写真、メディア芸術、生活文化、学術などの分野の推薦は少ないことから、今後、幅広い分野からの推薦をいただくよう期待する。

地域別にみると、東紀州地域からの受賞候補者がなかったが、県内各地には三重県文化賞に相応しい優れた方々が活躍していると思われるので、さらなる積極的な掘り起しが必要である。

第 17 回以降は、より多くの、そして、より多才な文化活動に携わっている方々の成果が多く推薦されることを願う。

最後に、三重県の文化の向上に寄与するため、三重県の文化活動のさらなる活性化と向上のための礎となることを願う。そのためにも三重県文化賞の意義をより明快に県民に認知していただけるよう、広報をさらに充実することで、幅広い分野や多くの地域の方々からの積極的な応募につながることを切望する。

#### 第 16 回三重県文化賞選考委員会

(受賞候補者名は各賞五十音順)

## 第16回三重県文化賞受賞者

(受賞者名)	(住所)	(活動分野等)
〔文化大賞〕 錦 かよ子 (67歳)	津市	音楽分野 (作曲)
〔文化功労賞〕 石井 いさお (76歳) (本名:石井 烈)	菟野町	文学分野 (俳句)
矢田 新男 (68歳)	津市	写真分野 (写真)
〔文化奨励賞〕 梅山 憲三 (70歳)	いなべ市	文学分野 (現代詩)
岡本 千尋 (77歳)	四日市市	文学分野 (俳句)
加藤 秀樹 (47歳)	四日市市	美術分野 (陶芸)
憲旺会	津市	伝統芸能分野 (尺八)
伴 剛一 (50歳)	津市	音楽分野 (作曲)
〔文化新人賞〕 伊藤 潤一 (30歳)	松阪市	生活文化分野 (書)
前田 祐英 (62歳)	松阪市	美術分野 (木工)
森川 真理子 (49歳)	四日市市	美術分野 (パステル画)
森下 充子 (67歳)	伊勢市	文学分野 (俳句)
横田 千明 (31歳)	いなべ市	美術分野 (彫刻)

(各賞五十音順、年齢は平成29年5月21日現在)

賞別 文化大賞 活動分野等 音楽分野（作曲）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>にしき こ 錦 かよ子  (67 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、大学在学中の昭和 46 年に日本音楽コンクールで入選、昭和 49 年に 3 位入賞を果たし、昭和 55 年には文化庁の舞台芸術創作奨励特別賞を受賞するなど、早くからその才能を認められ、その後、ピアノ曲や声楽曲、合唱曲などの多くの作品を発表している。</p> <p>平成元年からはオペラや舞台芸術作品の創作に精力的に取り組み、長崎の原子爆弾の悲劇を描いたオペラ「いのち」は、県内のみならず、平成 25 年に長崎県、平成 27 年には新国立劇場の地域招聘公演として上演され、その演奏は「三菱 UFJ 信託音楽賞奨励賞」、「JASRAC 音楽文化賞」を受賞するなど、高い評価を受けている。また、「斎王」や「贅のうたげ」などの地元を題材とした多数の作品が県内各地で上演され、好評を得ている。</p> <p>一方、氏は 30 余年の教員生活の中で、音楽家を育成するとともに、保育士や教員を目指す学生等に音楽、ミュージカル指導を行うなど、人材育成にも尽力してきた。</p> <p>また、三重県文化審議会委員、津市文化振興審議会委員、三重オペラ協会理事等を歴任するとともに、NHK 全国学校音楽コンクール三重県予選審査員等として芸術審査に携わり、さらに県内の校歌や社歌の作曲などの幅広い活動を通じて、本県の音楽文化の振興に寄与している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は極めて優れたものであり、本県の文化の向上に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いしい 石井 いさお</p> <p>(本名：石井 <sup>いしい</sup> <sup>いさお</sup> 烈)</p> <p>(76 歳)</p>	<p>菰野町</p>	<p>氏は、高校教諭（国語）として教壇に立つ傍ら、俳句の創作を開始し、昭和 52 年に山口誓子が主宰する「天狼」に入会、誓子亡き後は「天栢」を主宰する松井利彦に師事。現在に至るまでの永きにわたり、俳句の普及振興に尽力している。</p> <p>「俳祖荒木田守武没後 450 年記念俳句大会」実行委員長賞をはじめ、「三重県俳句協会」の大会及び諸団体が開催する俳句大会において数多くの受賞歴を有し、平成 16 年には三重県文化新人賞を受賞している。</p> <p>また、平成 16 年に自身が主宰を務める俳句結社「煌星」を結成し、俳句誌の発行や県内外での句会の開催等を通じて、約 400 名の会員の技量向上にあたるほか、小学校での出前授業の講師や各地において開催される俳句大会や総合俳誌の選者を務めるなど、俳句人口の裾野拡大に向けて、後進の指導、育成に尽力している。</p> <p>さらに、「俳人協会」評議員、「俳人協会三重県支部」支部長、「三重県俳句協会」副会長などの要職を歴任し、本県の俳句文化の普及、向上に大きく寄与している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>

賞別 文化功労賞 活動分野等 写真分野（写真）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>やだ あらお 矢田 新男</p> <p>(68 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、昭和 49 年に「全日本写真連盟鈴鹿支部」に入会して以来、現在に至るまでの永きにわたり、写真美術の振興と普及に尽力している。</p> <p>「国際写真サロン」入選 16 回、「二科展」入選・入賞 9 回の実績を持ち、平成元年に「三重県展」最優秀賞、平成 6 年に「国民文化祭みえ 94 美術展」文部大臣奨励賞を受賞するなど、数多くの受賞歴を有し、平成 19 年に「津市文化奨励賞」、平成 23 年には「三重県文化奨励賞」を受賞している。</p> <p>氏の作風は、漁村で人間と共存して生きる野良猫の世界を表現しており、「野良猫の矢田」として、本県写真界のみならず、全国的な地位を確立している。</p> <p>また、「全日本写真連盟」中部本部委員、「二科会写真部三重支部」事務局長、支部長などの要職を歴任し、全日本写真連盟の県内各支部で行われる月例会の講師を務めるほか、三重県展及び各市美術展等の審査員を務めるなど、後進の育成と指導に尽力している。</p> <p>氏のこうした活動と功績は優れたものであり、本県の文化の活性化に大きく貢献している。</p>



賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（現代詩）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>うめやま けんぞう 梅山 憲三  (70 歳)</p>	<p>いなべ市</p>	<p>氏は、平成 9 年から教職員の文芸誌「文芸広場」に作品を投稿し、平成 16 年に年間賞を受賞、平成 20 年に「三重県文化新人賞」、平成 27 年に「鈴鹿市文芸賞」優秀賞などを受賞し、高く評価されている。</p> <p>平成 19 年に第一詩集「仙人の団扇」を出版、その後、「みえ現代詩の会」、「三重県詩人クラブ」の会員として詩作品を発表し、平成 28 年には第二詩集となる「土の顔」を出版している。</p> <p>氏の作品には、日常の暮らしの中に題材をみつけ、平易な表現で読む人の心に迫る作品が多く、生活の中での「驚き」や「発見」、「興奮」を大切に描かれている。</p> <p>平成 21 年から「四日市文芸賞」の審査員を務めるとともに、平成 24 年から同人誌「みえ現代詩」の編集委員として参画し、後進の育成と指導の一翼を担っている。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>おかもと ちひろ 岡本 千尋  (77 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、昭和 46 年に俳句結社「菜の花」に入会し、俳句の創作活動を始め、昭和 48 年に「菜の花」新人賞、昭和 60 年に「三重県俳句協会」年間賞、平成 19 年に「守武祭記念俳句大会」神宮大宮司賞など、結社や三重県俳句協会、諸団体が主催する俳句大会において数多くの受賞歴を有する。</p> <p>様々な俳句雑誌に作品を発表するとともに、平成 25 年には第一句集「緑さす」を発行している。</p> <p>また、平成 13 年から「三重県俳句協会」の理事、平成 25 年からは事務局長を務め、会員約 470 名の組織の運営を支えるとともに、年刊句集の発行、年間賞の選考、県内各地の俳句大会への支援などの様々な協力を行い、県内の俳句文化の向上に大きく寄与している。</p> <p>さらに、俳句結社「菜の花」では、平成 12 年から同人会幹事として運営にあたり、初心者を対象とした勉強句会において指導を行うなど、後進の育成にも尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 美術分野（陶芸）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>かとう ひでき 加藤 秀樹</p> <p>(47 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、芸術大学にて彫刻を専攻し、造形の基礎を研鑽した後、平成 17 年に作陶を開始。平成 21 年に「みえ県展」岡田文化財団賞を受賞、その後、「瀬戸・藤四郎トリエンナーレ」において平成 25 年に審査員特別賞、平成 28 年にはグランプリを受賞している。</p> <p>柔らかなフォルム・曲線を得意とし、独創的な作品を発表し続けており、県内外で展覧会を開催。平成 28 年には「瀬戸・藤四郎トリエンナーレ」グランプリ受賞記念の個展を開催している。</p> <p>地域においては、高齢者施設への出張陶芸教室や障がい者支援施設において作陶、焼成のサポートを行うほか、放課後こども教室において陶芸教室の講師を務めるなど、後進を育成するとともに陶芸の普及に尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 伝統芸能分野（尺八）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>けんおうかい 憲旺会  (代表：永田憲男)</p>	<p>津市</p>	<p>憲旺会は、会長である永田憲男氏が昭和44年に創立した「憲山会」と平成6年に創立した「憲友会」を統合し、平成12年に結成された。</p> <p>憲旺会が主催する演奏会をはじめ、日本尺八連盟三重県支部演奏会、三重県三曲協会演奏会、平和のための音楽会、国民文化祭など、各地で開催される邦楽演奏会に多数出演し、本県の邦楽演奏活動に欠かすことのできない存在となっている。</p> <p>演奏会では古典のみならず、7音階で構成される現代曲まで幅広く演奏するとともに、邦楽器だけでなくピッコロやティンパニなどの洋楽器とのコラボレーションにも挑戦している。</p> <p>また、結成以来、研修や合奏練習に精力的に取り組むことにより、会員の演奏技術の向上に努めるとともに、中学校邦楽教室において尺八指導を行うなど、後進の育成に尽力している。</p> <p>当団体は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化奨励賞 活動分野等 音楽分野（作曲）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>ばん たけかず 伴 剛一  (50 歳)</p>	<p>津市</p>	<p>氏は、高校在学中から、ほぼ独学で作曲を習得し、会社勤めを続けながら作曲活動を行っている。</p> <p>昭和 63 年に「全日本合唱コンクール」課題曲公募に入選し、翌年、同コンクールの課題曲として採用されるほか、平成 12 年に「朝日作曲賞」を受賞するなど、全国規模の作曲コンクールでの受賞歴を有し、平成 14 年に「三重県文化新人賞」、平成 17 年に「津市文化奨励賞」を受賞している。</p> <p>県内外の合唱団、声楽家等から委嘱を受けて、多数の合唱曲を作曲するとともに、近年は合唱作品にとどまらず、器楽曲、オペラ、オラトリオ等も手がけ、作曲の幅を広げている。</p> <p>また、氏の楽曲には「三重民謡集」をはじめ、三重県をテーマとしたものも多く、平成 28 年には伊勢志摩サミット応援事業の一環として、イメージソング「いま、ここから」を作曲するなど、地域に根ざした活動に尽力している。</p> <p>氏は、こうした活動により功績を収め、本県の文化興しに貢献している。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 生活文化分野（書）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>いとう じゅんいち 伊藤 潤一  (30 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、平成 19 年から独学で書を始め、翌年以降、県内外で個展を開催するとともに、平成 25 年からは海外の美術展にも出品し、平成 26 年に台湾の「永遠の朋友展」、平成 27 年にイタリアのミラノ国際博覧会公認「JAPAN ART TASTING EXPO 2015」で作品が展示された。台湾では、国立故宮博物院国際正会員に認定されている。</p> <p>県内では、地域の祭やイベントへ多数参加しているほか、平成 24 年から小、中学校において書の楽しさを伝える授業を行うなど、書の普及とともに地域活性化の一翼を担っている。</p> <p>また、平成 28 年の伊勢志摩サミットでは配偶者プログラムにおける夕食会場の装飾、演出を手掛け、氏の作品が会場内に飾られた。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（木工）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>まえだ ゆうえい 前田 祐英  (62 歳)</p>	<p>松阪市</p>	<p>氏は、平成 20 年に自宅に工房を構え、独学で作品制作を開始し、同年、初出品した「松阪市美術展覧会」で松阪市議会議長賞を受賞。その後、「みえ県展」に 4 回入選、「日本伝統工芸展」入選、平成 28 年には「東海伝統工芸展」愛知県知事賞を受賞するなど、習得に長い期間を要する木工の分野において、短期間で実績をあげている。</p> <p>平成 22 年に「伝統工芸三重研究会」に入会し、同会が主催する会員展に出品するほか、「三重の作家たち展 2016」への出品、個展の開催など、精力的に作品を発表し続けている。</p> <p>また、平成 25 年以降、県内の中学校において「木印製作体験講座」の講師を務めるなど、伝統工芸の普及に努めている。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（パステル画）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>もりかわ まりこ 森川 眞理子  (49 歳)</p>	<p>四日市市</p>	<p>氏は、39 歳の時、事故をきっかけに、手などが慢性的に痛む難治性の病気を発症。リハビリの一環としてパステル画に取り組み始めた。</p> <p>氏の作風は、陶器の花瓶に生けた花をテーマにした作品を多く制作し、その幻想的な色調に特徴がある。</p> <p>平成 27 年に「日美絵画展」入選のほか、「日本・フランス現代美術世界展」、「パリ国際サロン ドローイング・コンクール部門」、「欧美国際公募 コルシカ美術賞展」など、海外を目指す画家の公募展で複数回の入選を果たしている。</p> <p>まさに芸術の役目「生きがい、夢、希望」を体現されている。</p> <p>氏のような活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>



賞別 文化新人賞 活動分野等 文学分野（俳句）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>もりした みつこ 森下 充子  (67 歳)</p>	<p>伊勢市</p>	<p>氏は、平成 18 年に「NPO 俳句みえ」に入会し、作句を始め、現在は「年輪俳句会」に所属し、創作活動を行っている。</p> <p>平成 23 年に「芭蕉祭全国俳句大会」特選、平成 28 年に「俳人協会三重支部俳句大会」特選、同年に「年輪会」年間努力賞を受賞するなど、結社や俳句協会のほか、諸団体が主催する俳句大会において数多くの受賞歴を有する。</p> <p>また、平成 25 年から「俳祖守武翁顕彰会」の幹事を務めるほか、「年輪俳句会」では、平成 26 年から俳句誌「年輪」の編集委員を務めるとともに、常任幹事として研究会の企画や記念大会の開催等に携わるなど、俳句の普及にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

賞別 文化新人賞 活動分野等 美術分野（彫刻）

名 前	住 所	受 賞 理 由
<p>よこた ちあき 横田 千明  (31 歳)</p>	<p>いなべ市</p>	<p>氏は、芸術大学在学中の平成 19 年に「みえ県展」岡田文化財団賞を受賞。  「みえ県展」では、これまでに 5 回の入賞を果たし、平成 27 年には最優秀賞を受賞している。  氏の作風は、型に麻布を漆で貼り重ねて成形する伝統的な技法である「乾漆」を用いて、動物の立体作品を制作するところに特色がある。素材としての漆の魅力を活かし、質感の表現を追求した作品は、高く評価されている。  平成 20 年に初個展を開催して以降、個展及びグループ展を多数開催し、作品を発表している。  氏のこうした活動は、将来一層の向上が期待できる。</p>

## 第16回 三重県文化賞の概況

### 1 賞の趣旨

三重県の文化振興に貢献し、その活動及び功績が優れた個人・団体を表彰することにより、優れた活動や功績の周知を図るとともに、より高い自己研鑽に努めていただく目標にもなるよう、顕彰制度として三重県文化賞を設ける。

### 2 募集期間

平成28年7月22日から9月21日まで

### 3 受賞候補者の状況

文化大賞	7名	
文化功労賞	9名	
文化奨励賞	16名	
文化新人賞	8名	総数 40名

### 4 受賞者の状況

#### (1) 分野別受賞者数

賞区分	分 野										計
	文学	美術	音楽	演劇・舞踊	写真	民芸・芸術	伝統芸能	生活文化	学術	その他	
文化大賞			1								1
文化功労賞	1				1						2
文化奨励賞	2	1	1				1				5
文化新人賞	1	3						1			5
計	4	4	2		1		1	1			13

#### (2) 地域別受賞者数

賞区分	地 域 (各地域防災総合事務所・地域活性化局)										計
	桑名	四日市	鈴鹿	津	松阪	南勢志摩	伊賀	紀北	紀南	県外	
文化大賞				1							1
文化功労賞		1		1							2
文化奨励賞	1	2		2							5
文化新人賞	1	1			2	1					5
計	2	4		4	2	1					13

三重県文化賞歴代受賞者（第1回～第16回）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第1回	平成13年度	北村 憲司（児童文学）*	勝美 伊三次（日本舞踊） 保黒 時男（植物生態学調査）	あの津っ子の会（児童文学） 伊勢管弦楽団（交響楽） 伊藤 宏樹（吹奏楽） 落合 花子（詩歌） 川端 守（地域づくり活動）	新井 明子（演劇） 津手づくり絵本の会（児童文学） 坪井 智子（箏曲） 伴 剛一（作曲活動） 東川 和子（川柳） 平田 環（俳句）
第2回	平成14年度	（該当者なし）	亀山絵本と童話の会（児童文学） 坪島 土平（陶芸） 三重ヴォークスポーナ（合唱）	伊勢シンフォニックバンド（吹奏楽） 菅生 三千代（箏曲） 羽場 正一（演劇） 黛 元男（詩歌） 南川 憲生（彫刻）	池田 比早子（ひのきクラフト） 鎌田 美津子（写真） ゴルジ隊（演劇） 阪野 優（マンボ研究） 田中 豊（演劇） 中森 勉（写真） 平賀 節代（俳句） 森田 茂治（詩歌）
第3回	平成15年度	稲垣 克次（彫刻）	川北 佐佐治（伝承芸能） 中村 武郎（ギター・マンドリン） 山口 勲（俳句）	金子 聡（環境科学研究） 北住 淳（ピアノ演奏） 近藤 英子（彫刻） 森 一蔵（萬古焼） 山内 玲子（箏曲）	石井 烈（俳句） 佐々木 經子（俳句） 東 勝美（児童文学） Building Bridges （文化資産等の保護） 津軽三味線兄弟ユニット KUNI-KEN（津軽三味線） 三浦 恭子（インド舞踊） 水野 昌光（地域の映画館を 活用した市街地活性化）
第4回	平成16年度	ヴォーカルアンサンブル 《EST》（合唱）	岡村 信也（吹奏楽） 土屋 喜八郎（能楽） 中林 長生（俳句）	笠井 幹夫（オペラ） 木岡 ふみ子（箏、三絃） 佐々木 宏子（ピアノ演奏） 清水 正明（郷土文学者・ 文学作品の発掘、紹介） 谷口 智行（俳句）	阪本 青悠（書） 高崎 一郎（詩） 中山 かほり（吹奏楽） 藤田 智子（箏、十七絃等） 松田 実靱（小説） 三重大学ダンス部（ダンスの創作）
第5回	平成17年度	野口 巳織子（日本画）	関宿町並み保存会 （関宿の町並み保存） 田村 美保子（大正琴） 間瀬 昇（評論、小説）	田村 公男（洋画） 東海 かおり（箏、三絃） 福山 良子（俳句） 松嶋 節（小説） 山村 楽女（日本舞踊）	伊勢童話をつくる会“ほほえみ” （童話） 麻植 慶治（雅楽） 奥山 和子（俳句） 後藤 千佳子（筆名：伍東ちか） （現代詩） 津村 美香（フラワーデザイン） 人情集団An-Pon-Tan （バリアフリーミュージカル）
第6回	平成18年度	谷本 光生（伊賀焼）	岡森 章（伊賀焼） 森 浩一（能楽・狂言）	川島 雅樹 （声楽・オペラ・合唱） 水谷 幸勉（工芸美術） 宮村 典子（川柳） 村上 しいこ（童話） 三重オペラ協会（オペラ）	佐藤 千恵（俳句） みえ熊野学研究会 （地域資産研究）

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第7回	平成19年度	宮田 正和 (俳句)	越知 愛幸子 (合唱) 中川 忠峰 (根付) 吉居 清雄 (堅塩作り)	中山 かほり (吹奏楽) 西田 誠 (俳句) 秦 昌弘 (郷土作家の研究) 服部 博之 (和太鼓) 馬場 浩子 (声楽)	アモーレかめやま (大正琴) 梅山 憲三 (現代詩) 垣内 美穂 (詩・児童文学) 桐生 智晃 (吹奏楽) 葛原 郁子 (短歌) 現代邦楽楽団グループ竹友 (邦楽) 比留間 雅弥真天 (邦楽)
第8回	平成20年度	小野 雅生 (洋画)	稲垣 無得 (書) 倉田 しげる (俳句)	伊藤 政美 (俳句) 岩崎 孝子 (洋画) 津田 親重 (日本画) 野村 幸廣 (ミュージカル) 山本 翠松 (伝統漆工芸)	秋野 信子 (詩・小説) 岡本 妙子 (詩) 劇団員弁川 (演劇) 福田 容子 (俳句)
第9回	平成21年度	園田 幸男 (吹奏楽)	赤井 重規 (能楽) 原 直矢 (彫刻) 鍋島 泰 (方言の研究)	橋本 輝久 (俳句) 三重県吹奏楽連盟 (吹奏楽) 田中 厚好 (彫刻) 青木 久佳 (短歌) 岸 武男 (演劇)	山口 道子 (版画) 前田 照子 (俳句) やまぎり 萌 (現代詩) 林 英一 (多文化共生の研究) 長岡 むつみ (リコーダー指導) 中川 左和子 (短歌)
第10回	平成22年度	長島 幹生 (写真)	相賀 泰 (神楽) 衣斐 弘行 (評論・小説の執筆、郷土作家の顕彰) 川合 俊平 (合唱)	小河 柳女 (川柳) 津奈乃会 (邦楽) 矢田 新男 (写真) 矢吹 紫帆 (音楽による地域振興)	小早川 涼 (小説) 佐藤 ゆかり (女性史の研究) 多気町劇団白つばき (演劇) 橋倉 久美子 (川柳) 橋本 石火 (俳句) 堀内 晶 (地域の歴史・文化と戦争体験の語り継ぎ) 村田 三郎 (地域文化の紹介と観光ボランティアガイド) 村山 砂由美 (詩)
第11回	平成23年度	稲葉 祐三 (声楽・合唱・オペラ)	田嶋 子 (マリンバ) 玉置 千代 (児童文学) 野嶋 峰男 (木漆工芸)	伊藤 清和 (美術の振興) 神田 ひろみ (俳句・評論) 清崎 博 (安乗の人形芝居) 山崎 龍芳 (伊賀焼) 四日市ジュニア・アンサンブル (合奏等)	越知 ひとみ (音楽の普及) 小津 由実 (俳句) 斎宮アカデミー (歴史・文化) 清水 潮 (萬古焼) 中西 紀和 (陶芸)
第12回	平成24年度	橋本 三重子 (日本画、書道)	伊藤 政美 (俳句) 角谷 英明 (陶芸) 菅生 和光 (吹奏楽、指揮者)	桐生 智晃 (吹奏楽) 坂尾 富司 (写真) 中村 かおる (箏曲) 西田 真也 (陶芸) 三重県陶芸協会 (「焼きもの」の振興)	真山 隼人 (浪曲) 志摩市俳句協会 (俳句) 手塚 泰子 (俳句) 西村 健二 (郷土史研究) 堀川 孝子 (詩) 村松 とし子 (短歌)
第13回	平成25年度	三重フィルハーモニー 交響楽団 (交響楽)	羽場 正一 (演劇) 羽根 功二 (合唱) 森 悦彦 (作詞・作曲)	小川 匠石 (書) 紀の川良子と市民劇団 (演劇を通じた地域振興) 阪本 青悠 (書) 達知 和子 (短歌) 比留間 雅弥真天 (箏・三弦)	岩田 典子 (俳句) 服部 真紀子 (陶芸) 廣 めぐみ (声楽)

		文化大賞	文化功労賞	文化奨励賞	文化新人賞
第14回	平成26年度	加藤 子華 (書)	谷本 景 (伊賀焼) 森 正 (陶芸) 脇谷 実千子 (児童文学)	尾崎 亥之生 (俳句) 武村 豊徳 (陶芸) 伴野 節子 (箏・三絃) 川 光和 (競技かるたの読み手) 崎 柳歩 (川柳)	伊藤 圭佑 (津軽三味線) つげ みさお (児童文学) 西田 昂平 (声楽) 和太鼓 凜 (和太鼓)
第15回	平成27年度	三代 清水 醉月 (陶芸)	加藤 純一 (詩吟) 福田 勝 (能楽) 松山 好成 (組紐)	印藤 幸恵 (陶芸) 坂口 縁志 (俳句) 田邊 三郎 (写真) 中井 智弥 (箏曲) 安田 隆亮 (絵画)	牛場 寿子 (写真) 大形 弥生 (木工) 駒田 早代 (津軽三味線) 野瀬 みつ子 (写真) 平野 透 (俳句)
第16回	平成28年度	錦 かよ子 (作曲)	石井 いさお (俳句) 矢田 新男 (写真)	梅山 憲三 (現代詩) 岡本 千尋 (俳句) 加藤 秀樹 (陶芸) 憲旺会 (尺八) 伴 剛一 (作曲)	伊藤 潤一 (書) 前田 祐英 (木工) 森川 真理子 (パステル画) 森下 充子 (俳句) 横田 千明 (彫刻)